

★★★ 日本プロテオーム学会 学会通信第 290 号 ★★★

2018.02.21

【日本プロテオーム学会通信】は、日本プロテオーム学会会員の皆様に配信しています。【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問合せ】【掲載希望】は、日本プロテオーム学会事務局(info@jhupo.org)にお願いいたします。

■■■ 講演会のご案内 ■■■

日本プロテオーム学会員の皆様

国立がん研究センター研究所の近藤格生先生から講演会（開催日：平成 30 年 6 月 27-28 日催）に関するお知らせが届きましたので、以下にご案内申し上げます。

日本プロテオーム学会事務局

-
- 講演会タイトル：新しい治療法開発のための患者由来がんモデルの開発
 - 開催日：平成 30 年 6 月 27-28 日（水-木曜日）
 - 会場：国立がん研究センター研究所・新研究棟
 - オーガナイザー：近藤格（国立がん研究センター研究所）
 - 定員：300 名
 - ホームページ：<http://www2.aeplan.co.jp/pdcm2018/>

内容案内

患者由来がんモデルは基礎研究のみならず前臨床試験のツールとして重要な役割を果たしてきました。患者由来がんモデルなかりせばありえなかった学術的な発見は数多くあります。また、新しい抗がん剤の開発がハイペースで進んでおり、それらの前臨床試験のために今まで以上に患者由来がんモデルは必要とされています。

患者由来がんモデルは昔から使われてきたツールですが、わからないことが数多く残されています。たとえば、モデルの樹立成功率を決定する生物学的な因子はよくわかっていません。同じような症例からの似たような腫瘍組織であっても、実験動物には生着したりしなかったりします。細胞株も同様で、腫瘍組織から細胞を in vitro に移す段階では、後に株化されるかどうかはまったく予測できません。また、樹立されたモデルは生体の何をどれくらい反映しているのかも不明です。多層的なオミクス解析を実施してみると、モデルを樹立する過程で分子背景は大きく

変化していることがわかりますが、結果的に生体のどの形質が保存されているのか一般的にはわかっていません。このような謎を解き明かすことで、私たちは患者由来がんモデルをよりよく使うことができるようになるのでしょう。

本研究会では、患者由来がんモデルを組織的に構築していたり、基礎研究や前臨床試験に使っていたり、あるいはモデル構築のための基礎研究を行っている研究者の方々に御講演をお願いしました。本邦の第一線で活躍される方々です。患者由来がんモデルのさらなる有効活用と関連する研究分野の発展に向けて、活発な議論を期待しています。

本講演会が、患者由来がんモデルに興味のある方々の交流の場となることを願っています。

近藤格(希少がん研究分野、国立がん研究センター研究所)